

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表 （令和4年度）

1. 認定の日付

令和4年8月31日

2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社ゼンショーホールディングス

株式会社すき家

株式会社はま寿司

3. 認定事業適応計画の実施期間

令和4年9月から令和7年3月

4. 認定事業適応計画の実施状況

（1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

第4次産業革命とも呼ばれる技術革新が進む環境下において、ゼンショーグループでは基幹業態である「すき家」および「はま寿司」のDXを推進し、その成果としてお客様と従業員双方に新たな価値を創造提供することを事業適応計画の目標としています。なお「すき家」「はま寿司」の両業態で導入、展開した成功事例を速やかにグループ内の他事業者に波及させ、グループ全体としての進化成長に帰するため、事業適応のうちソフトウェア類についてはゼンショーホールディングスのIT、DX、技術開発部門にて集中的に設計、開発を実施します。

この計画に従い令和4年度において、株式会社すき家では調理管理システム（事業適応計画上の名称は“チョリコン”）、オーダー／会計システム（同“キャッシュレスセルフレジ”）に対して、合計278,797千円。株式会社はま寿司ではストレートライン、ルール型サイネージ、セルフレジ、衛生管理システム、Web注文ショーケースに対して、合計2,390,230千円の投資を実施しました。

また、株式会社ゼンショーホールディングスにてルール型サイネージのソフトウェア開発費用として、合計6,935千円の投資を実施しています。

（2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和4年度のROA実績として、すき家は18.8%（計画に対して+0.9%）となっています。令和4年度中に展開フェーズに入った「チョリコン」「キャッシュレスセルフレジ」による店舗の調理／会計オペレーション生産性向上効果が現れています。

はま寿司はROA実績が14.0%（計画に対して+8.3%）となりました。ストレートライン導

入店増加による配膳の自動化、セルフレジによる省力化が計画以上に効果を上げました。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

令和4年度の財務内容の健全性の向上指標については、株式会社すき家は有利子負債／CFが0.9倍、経常収支比率が110.6%となりました。株式会社はま寿司は有利子負債／CFが1.5倍、経常収支比率が111.6%となりました。株式会社ゼンショーホールディングスは有利子負債／CFが3.2倍、経常収支比率が108%となりました。

(4) 実施した事業適応計画の内容及び適用を受けた支援措置の内容

3社とも令和4年度においては、自己資金により、事業適応計画の認定申請書別表2-2に記載した資産の一部を取得し、同計画に沿って事業供用しました。

投資した資産のうち令和4年度中に事業供用した資産についてDX投資促進税制の適用を申請中です。